

株主通信

第90期(2021年3月期)中間

2020年4月1日～2020年9月30日

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第90期第2四半期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）が終了しましたので、概況をご報告申し上げます。

当第2四半期において、金属チタン事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により航空機向けや一般工業向けが低調であったことを主因として、前年同期と比較し大幅に減販となりました。触媒事業は、プロピレン重合用触媒市場において自動車用途は需要に弱さが見られたものの、包装用途・医療用途が好調に推移したことなどにより、前年同期並みの販売量となりました。化学品事業は、主要製品のニッケル粉について新型コロナウイルスの影響による需要減速はあったものの、通信関連用途の需要が減速した前年同期との比較では増販となりました。

こうした状況のもと、当第2四半期の業績につきましては、売上高は前年同期比22.9%減の165億89百万円、営業利益は36.8%減の10億75百万円となりました。また、経常損益は、昨年スポンジチタンの生産を開始したサウジアラビアの合併会社に係る持分法投資損失の計上等により97百万円の損失（前年同期は14億71百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損益は2億90百万円の損失（前年同期は9億36百万円の利益）となりました。

配当につきましては、中間配当は1株当たり6円とさせていただきます。期末配当については1株当たり6円とする予定です。

当社グループは、新たに中期経営計画（2020—2022年度）を策定いたしました。この計画に基づき、成長分野への重点投資、サウジアラビア合併会社の早期収益化、本社移転を契機とした業務効率化と茅ヶ崎工場リニューアル、新規事業の創出・推進などを重点課題として、経営基盤の強化及び中長期的な成長に向けて取り組みを進めております。

厳しい事業環境の中ではありますが、当社グループの発展に向けて必要な施策を着実に展開してまいり所存でありますので、皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2020年11月



東邦チタニウム株式会社
代表取締役社長 西山佳宏

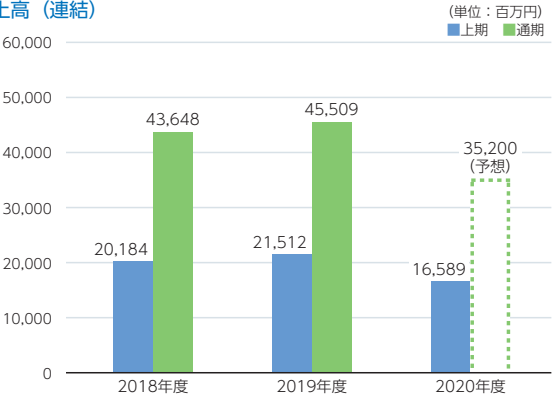
財務ハイライト

(単位：百万円)

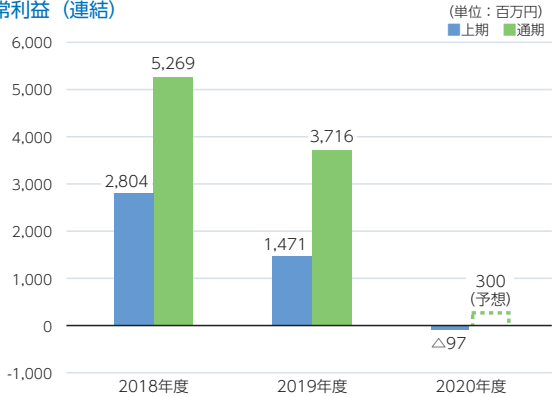
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2020年度第2四半期実績	16,589	1,075	△97	△290
2020年度通期業績予想	35,200	2,700	300	△400

※2020年度通期業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。

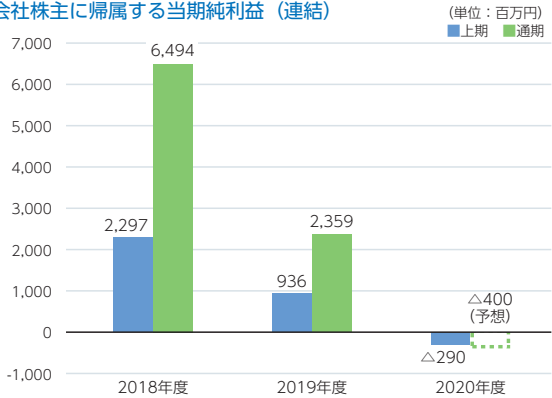
売上高（連結）



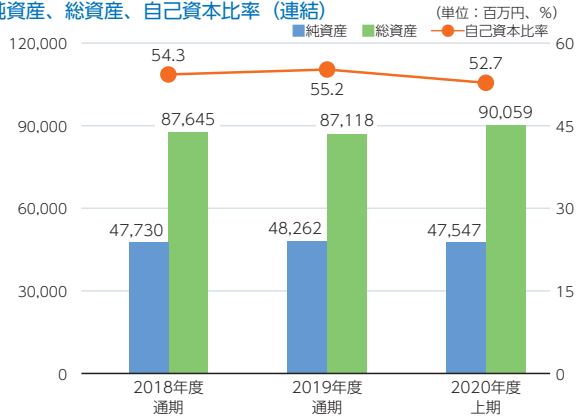
経常利益（連結）



親会社株主に帰属する当期純利益（連結）



純資産、総資産、自己資本比率（連結）



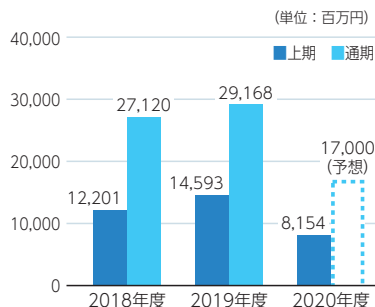
セグメント情報

金属チタン事業

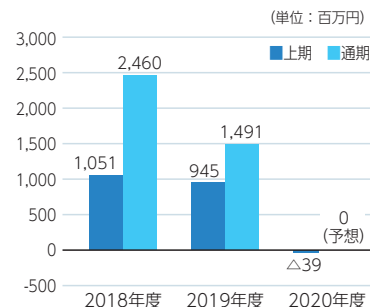
販売は、半導体向けは堅調であったものの、航空機向けが落ち込み、一般工場向けも低調でした。チタン鉱石価格が高止まりしていることもあり、前年同期比で大幅な減収減益となりました。

各種施策を確実に実行し、コロナ禍からの早期回復と収益力の抜本的な改善を進めてまいります。

売上高 **81億54**百万円



営業利益 **△39**百万円

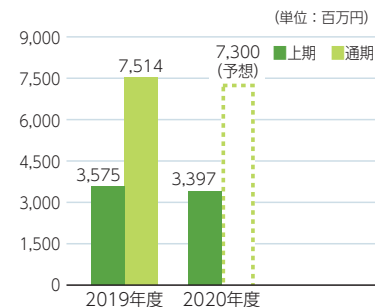


触媒事業

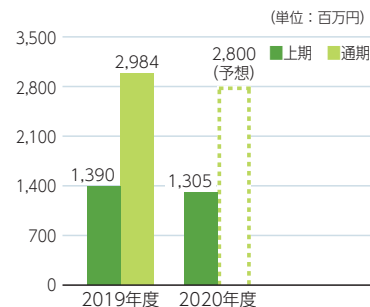
プロピレン重合用触媒の市場において、自動車向けの需要は弱さが見られたものの、包装用途・医療用途向けが好調に推移し、前年同期並みの販売量となりました。

ポリプロピレンの需要増を受け、新工場立上げ等によりさらなる事業拡大を追求し、市場の伸びを上回る成長を目指します。

売上高 **33億97**百万円



営業利益 **13億05**百万円

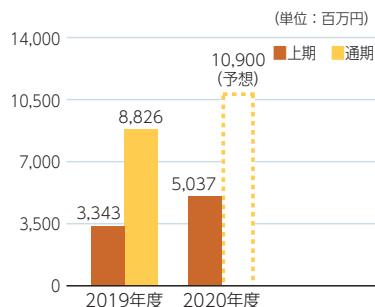


化学品事業

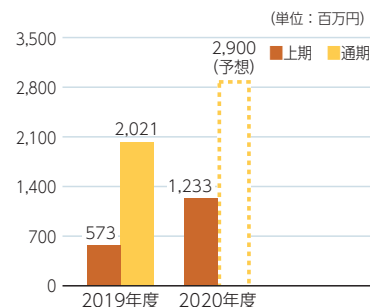
主要製品のニッケル粉について、コロナ禍を背景に車載向けの需要減速はありましたが、通信関連需要が減退した前年同期比では増販となりました。

ニッケル粉新工場の建設の着実な実行と早期戦力化等により、さらなる増販・事業拡大を追求し、市場の伸びを上回る成長を目指します。

売上高 **50億37**百万円



営業利益 **12億33**百万円



※営業利益は全社費用控除前のものです。(2020年度の全社費用は、上期1,424百万円、通期予想3,000百万円です。)

四半期連結財務諸表（要旨）

（単位：百万円）

四半期連結貸借対照表（要約）

科目	当第2四半期	前期
	2020年9月30日	2020年3月31日
〈資産の部〉		
流動資産	41,717	38,502
固定資産	48,342	48,616
有形固定資産	41,518	40,725
無形固定資産	1,119	945
投資その他の資産	5,704	6,944
資産合計	90,059	87,118
〈負債の部〉		
流動負債	25,240	26,125
固定負債	17,271	12,729
負債合計	42,511	38,855
〈純資産の部〉		
株主資本	47,912	48,630
その他の包括利益累計額	△495	△501
非支配株主持分	130	133
純資産合計	47,547	48,262
負債純資産合計	90,059	87,118

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結損益計算書（要約）

科目	当第2四半期	前第2四半期
	2020年4月1日～ 2020年9月30日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
売上高	16,589	21,512
売上原価	12,769	16,805
売上総利益	3,819	4,707
販売費及び一般管理費	2,744	3,004
営業利益	1,075	1,702
営業外収益	60	34
営業外費用	1,232	265
経常損益	△97	1,471
特別損失	23	143
税金等調整前四半期純損益	△120	1,328
法人税、住民税及び事業税	27	163
法人税等調整額	143	225
法人税等合計	171	389
四半期純損益	△291	939
非支配株主に帰属する四半期純損益	△1	3
親会社株主に帰属する四半期純損益	△290	936

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

科目	当第2四半期	前第2四半期
	2020年4月1日～ 2020年9月30日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,155	3,136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,858	△1,333
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,454	△706
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△32
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△560	1,064
現金及び現金同等物の期首残高	2,641	1,600
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,081	2,664

中期経営計画（2020－2022年度）スタート

新たに策定した中長期基本方針に基づき、本年度から中期経営計画を開始し、経営基盤強化及び中長期的な成長に向けた取り組みを進めております。

[中長期基本方針]

金属チタン事業に加え、チタンとその関連技術の中核とする複数のダウンストリーム事業を有する高収益素材メーカーを目指す

[中計の基本戦略と主要施策]

1. 成長分野への重点投資による収益基盤の強化

- ・ニッケル粉第4工場
- ・触媒新工場
- ・分析センター構想
- ・茅ヶ崎のEB炉

2. サウジ合併会社 (ATTM) の早期収益化

- ・販売量の拡大
- ・スポンジ生産量の早期引き上げ

3. 本社移転と茅ヶ崎工場リニューアルプラン

- ・本社移転を契機に全社での業務運営全般の見直し

4. 新規事業の創出・推進

- ・社会動向と当社が有する技術シーズを結び付けた市場探索と迅速な対応

[財務戦略]

「成長投資」と「財務体質維持」の両立

健全な財務体質(自己資本比率 50%台)を維持しつつ成長分野への重点投資



中長期的なROEの向上

[収支計画・財務指標]

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見通し	2022年度 試算値
売上高	455	352	580
経常利益	37	3	60
当期純利益	24	△4	40
ROE	5%	△1%	8%
自己資本比率	55%	49%	52%

[参考]

D/E レシオ	0.6	0.9	0.7
---------	-----	-----	-----

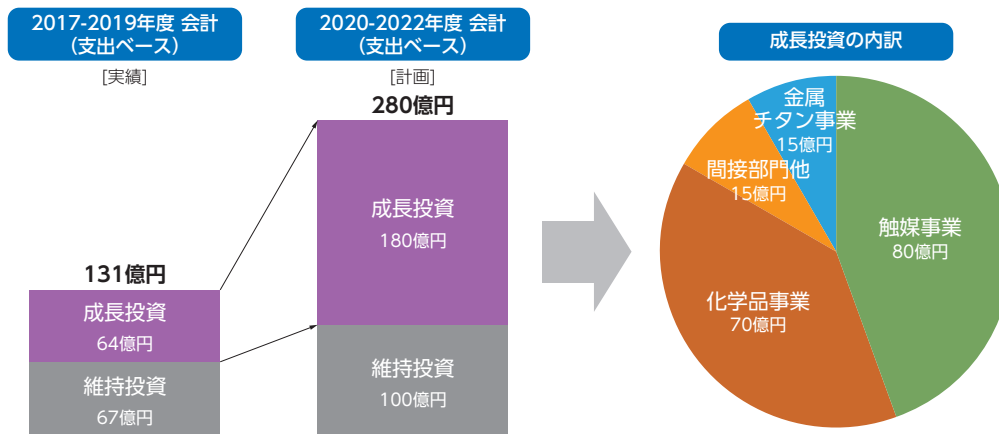
[セグメント別主要課題と施策]

金属 チタン 事業	主要課題	施策
	1 コスト競争力強化	■ AI、IoT活用による生産コスト低減 ■ 低品位鉱石を使いこなし技術開発の促進
	2 販路拡大による収支改善	■ 主要顧客とのアライアンス強化による販売数量確保 ■ 高純度金属事業の拡大・強化

触媒事業	主要課題	施策
	1 PP需要増への対応	■ 既存設備での増産対応、新工場建設後の垂直立ち上げ
	2 顧客ニーズへの対応	■ 高付加価値PP製造用触媒、環境対応型触媒の開発促進

化学品事業	主要課題	施策
	1 拡販に向けた取り組み	■ ニッケル粉新工場建設の着実な実行と早期戦力化
	2 生産能力確保	■ 次期増強に向けた具体案検討

[設備投資計画]



可視光応答型光触媒酸化チタンの商品化に向けた取り組み加速

今回の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各種抗菌・抗ウイルス技術のニーズが今まで以上に高まっております。

そこで当社は、既開発の可視光応答型硫黄ドーパ酸化チタン光触媒の技術に、酸化チタンの改良や金属チタン板への適用などの新たな技術を付加し、さらに優れた機能を有する材料の開発に着手しました。

今後、この開発を通じて、新型コロナウイルス感染症の対策に取り組む社会への貢献を目指してまいります。



可視光応答型光触媒酸化チタン粉末

会社概要 (2020年9月30日現在)

□ 社名	東邦チタニウム株式会社
□ 本社所在地	神奈川県横浜市西区南幸一丁目1番1号 JR横浜タワー22階
□ 生産拠点	茅ヶ崎工場、若松工場、八幡工場、 日立工場、黒部工場、 岐阜工場（東邦マテリアル株式会社）
□ 資本金	119億63百万円
□ 従業員数（連結）	967名
□ 主要な子会社	トーホーテック株式会社 東邦マテリアル株式会社 Toho Titanium America Co., Ltd. Toho Titanium Europe Co., Ltd.

株主メモ

□ 事業年度	4月1日から3月31日まで
□ 定時株主総会	6月
□ 基準日	定時株主総会権利行使株主 3月31日 期末配当金受領株主確定 3月31日 中間配当金受領株主確定 9月30日
□ 単元株式数	100株
□ 公告の方法	電子公告
□ 上場証券取引所	東証第一部
□ 株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
□ 同連絡先	三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 フリーダイヤル 0120-782-031